

講義コード	D350100101	科目ナンバリング	135F642
講義名	博士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Doctoral Thesis		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	D 1年～3年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

博士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の博士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	総括
第14回	2学期の目標設定
第15回	論文指導
第16回	論文指導
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	総括

授業方法

指導は状況に応じて対面あるいは遠隔(Zoom)で行う。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

講義コード	M350100101	科目ナンバリング	135F641
講義名	修士論文指導(ドイツ語ドイツ文学専攻)		
英文科目名	Supervision for Master's Thesis		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年
時間割	集中(通年) その他 集中講義		

授業概要

修士論文の指導を行う。

到達目標

指導教員(主査および副査)から自身の修士論文に関する具体的な助言を得て、論文の内容を改良することができるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	論文指導
第3回	論文指導
第4回	論文指導
第5回	論文指導
第6回	論文指導
第7回	論文指導
第8回	論文指導
第9回	論文指導
第10回	論文指導
第11回	論文指導
第12回	論文指導
第13回	総括
第14回	第2学期の目標設定
第15回	論文指導
第16回	論文指導
第17回	論文指導
第18回	論文指導
第19回	論文指導
第20回	論文指導
第21回	論文指導
第22回	論文指導
第23回	論文指導
第24回	論文指導
第25回	論文指導
第26回	総括

授業方法

状況に応じて対面あるいは遠隔(Zoom)で指導する。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前に問題点を整理しておくこと(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		

中間テスト

レポート	100%	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

年度末に研究成果レポートを提出。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

年度末に提出される研究成果レポートに関しては、コメントを付して返却する。

その他

主査の教員と綿密に連絡をとること。

講義コード	M350200101	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(1) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 2時限 西1-211		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Vorstellung des Kurses / Einführung
第2回	Zeitgefühl I
第3回	Zeitgefühl II
第4回	Engagement in Vereinen
第5回	Handynutzung I
第6回	Handynutzung II
第7回	Probleme in Wohngemeinschaften
第8回	Porträt: Dinge des Alltags
第9回	Vor- und Nachteile moderner Medien
第10回	Schlagfertigkeit
第11回	Sprachen lernen
第12回	Dialekte I
第13回	Dialekte II

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	40 %	mündliche Prüfung
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback; persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト(<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>)より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	M350200102	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(2) (学部:言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	MEYER, Thomas Horst		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 2時限 西1-211		

授業概要

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrwerk Aspekte neu C1 (Klett Verlag), das eine Einarbeitung in themenbezogenen Wortschatz und Grammatik auf dem Niveau C1 bietet. Die Themen umfassen im Wesentlichen gesellschaftliche Felder wie Medien, Bildung, Beruf, Wirtschaft und Lifestyle in aktuellen Ausprägungen und Problemkonstellationen.

到達目標

Ausweitung des Wortschatzes auf C1-Niveau, Verbesserung des Lese- und Hörverständnisses sowie Übung des sprachlichen Ausdrucks anhand von aktuellen Themen.
Deutschkenntnisse auf dem Niveau von C1 werden vorausgesetzt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Einführung/Stellenanzeigen
第2回	Ein "bunter" Lebenslauf
第3回	Studium oder Ausbildung I
第4回	Studium oder Ausbildung II
第5回	Multitasking
第6回	Soft Skills
第7回	Der Kohlenpott: Die Entwicklung des Ruhrgebiets
第8回	Gewissensfragen
第9回	Globalisierung I
第10回	Globalisierung II
第11回	Crowdfunding I
第12回	Crowdfunding II
第13回	Zusammenfassung

授業方法

Grundlage des Unterrichts ist das Lehrbuch Aspekte neu Mittelstufe Deutsch C1. Je nach Größe des Kurses sollen die Teilnehmer in Einzel- oder Partnerarbeit Texte erarbeiten und Aufgaben lösen, die später im Plenum oder in Gruppen besprochen werden. An die Texte schließen sich kurze Grammatikerläuterungen und dazugehörige Übungen an. Das erworbene Wissen kann im Anschluss in weiteren schriftlichen Übungen, Hörverstehen-Übungen oder Diskussionsaufgaben erprobt werden. Je nach Problem- und Interessenlage der Teilnehmer kann der Fokus auf schriftliche, mündliche oder Hörverstehen-Aufgaben gelegt werden.

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Neben der üblichen Vor- und Nachbereitung des Unterrichts können vereinzelt Hausaufgaben von geringem Umfang gestellt werden (Fertigstellung von Übungen, Materialauswahl für den folgenden Unterricht u.ä.)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	40 %	mündliche Prüfung
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	60 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

mündliches Feedback, persönliche Sprechstunde (falls erwünscht)

教科書

Aspekte neu C1: Mittelstufe Deutsch, Lehr- und Arbeitsbuch, Ute Koithan et al, Klett Verlag, 2016, 978-3126050371

教科書コメント

Teilband 1 (Lektion 1-5) ist ausreichend.

Das Arbeitsbuch braucht nicht angeschafft zu werden.

履修上の注意

教科書を郁文堂のサイト(<https://www.ikubundo.com/news/2023-02-10/>)より購入できます。履修を決定した時点で(遅くとも第1回目の授業後)速やかに注文してください。

講義コード	M350200103	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(3) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 4時限 西1-201		

授業概要

現代ドイツ文化の源流が形作られた中世という時代、ドイツ語圏では現代のドイツ語とは様々な点で異なる言語が話されていました。また、中世最盛期の12～13世紀ごろには、宮廷の騎士階級による詩の文学が大いに栄え、ドイツ文学史上最初の黄金時代と呼ばれています。本授業では、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・中高ドイツ語の文法を学習し、辞書を頼りに原典購読に挑戦する。ゴットフリート・フォン・シュトラスブルクの叙事詩『トリスタン』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	序・中世とは
第2回	ドイツ語の歴史
第3回	続き
第4回	中高ドイツ語文法
第5回	続き
第6回	中世の社会・生活
第7回	続き
第8回	中世ドイツ文学
第9回	続き
第10回	英雄叙事詩
第11回	宮廷叙事詩
第12回	恋愛抒情詩
第13回	理解度の確認

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語文法の学習および原典購読などを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	50 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350200104	科目ナンバリング	135F611
講義名	◆ドイツ語学特殊研究(4) (学部: 言語・情報コース 専門演習) (大学院)		
副題	中世ドイツ語学・文学入門		
英文科目名	Studies in the German Language		
担当者名	平井 敏雄		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 4時限 西1-201		

授業概要

第1学期に引き続き、中世盛期に用いられた「中高ドイツ語」の概要を理解し、ドイツ語の歴史および周辺諸言語との関係についての基本的な知識を学ぶと共に、中世文学に触れ、中世の文化・社会・生活全般に関する理解を深めていきます。その際に、現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容をもったドイツ語テキストを読み解く能力の向上を目指します。なお、授業の内容上は第1学期の続きとなりますが、第2学期のみの受講も可能です。

到達目標

- ・中高ドイツ語を中心に、ドイツ語の歴史の概略をつかみ、現代ドイツ語に見られるさまざまな事象の起源を理解することで、現代語への理解をいっそう深める。また、周辺諸言語との関係についての知識を得る。
- ・現代ヨーロッパの源流である、中世の文化・社会・生活に関する知識・理解を深める。
- ・現代ドイツ語による参考文献を精読することで、学術的な内容のテキストに親しみ、ドイツ語の読解力を高める。
- ・辞書と文法書を頼りに、中高ドイツ語の原典購読に挑戦する。ゴットフリート・フォン・シュトラスブルクの叙事詩『トリスタン』の一部を読むことを予定しています。

授業内容

実施回	内容
第1回	中世ドイツの文化
第2回	続き
第3回	ドイツ語と周辺諸言語の関係・歴史
第4回	続き
第5回	歴史言語学的観点から見た現代ドイツ語
第6回	続き
第7回	中世ドイツ文学の詩人たち
第8回	小発表1
第9回	小発表2
第10回	ゴットフリート『トリスタン』講読
第11回	続き
第12回	続き
第13回	理解度の確認

授業計画コメント

上記内容は授業で扱うトピックを挙げたもので、この順番で学習するとは限りません。

授業方法

中世の言語・文化に関する現代ドイツ語の文献の講読、中高ドイツ語・ドイツ語の歴史の概要の学習、中高ドイツ語原典購読、小発表およびディスカッションなどを予定していますが、具体的には、受講者の人数・能力・関心に応じて決定します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語による参考資料の指定箇所には、毎回必ずあらかじめ目を通してきて下さい。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	50 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

試験の成績・授業中の課題への取り組みなどによって総合的に評価します。
博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業中に説明します。

教科書コメント

教材はプリントを使用します。参考文献等は授業中に適宜指示します。

履修上の注意

履修者数制限あり。 / 第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350202201	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(1) (学部: 文学・文化コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	GOESSNER, Gesine		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 3時限 北1-403		

授業概要

Den Schwerpunkt des ersten Semesters bildet das Drama "Emilia Galotti"(1761) von Gotthold Ephraim Lessing (1729-1781), in dem die Liebe der Emilia Galotti im Mittelpunkt steht. Diese Liebe entfaltet sich in politischen und gesellschaftliche Verhältnisse, bei denen der Herrschaftsstil der Aristokratie auf die neue aufgeklärten Moral des Bürgertums trifft. Im Seminar soll zunächst durch die sorgfältige Lektüre ein möglichst genaues Textverständnis hergestellt werden. Darauf aufbauend werden interpretatorische Fragen gestellt.

到達目標

Die Studierende lernen mittels "Emilia Galotti" einen Zugang zu Lessings Werk und der Epoche der Aufklärung kennen. Sie lernen genau zu lesen und erweitern dadurch ihre Deutschkenntnisse. Bei der Interpretation werden verschiedenen Zugänge gewählt, so dass die Studierenden einen Einblick in verschiedenen Interpretationsmethoden erhalten. Weiterhin erhalten sie Kenntnisse über die historische und soziale Situation in Deutschland/Europa im 18. Jahrhundert..

授業内容

実施回 内容

第1回	Einführung in das Seminar.
第2回	Literarische Epoche: Aufklärung. Literarisch Gattung: Dramatik Lesehinweise, Erarbeitung eines Szenenspiegels (schriftliche Szenenanalyse) als Arbeitsgrundlage
第3回	gemeinsame Textlektüre, Szenenanalyse Aufzug 1
第4回	gemeinsame Textlektüre, Szenenanalyse Aufzug 2
第5回	Lessing, sein Werk und seine Zeit. Szenenanalyse Aufzug 3
第6回	Arten des Dramas: Aristotelisches Drama und Lessings Dramentheorie. Szenenanalyse Aufzug 4
第7回	Szenenanalyse Aufzug 5. Zusammenfassung: Mündliche Darstellung des Textverständnisses.
第8回	Dialoganalyse
第9回	Figurenanalyse: Vier Seiten einer Nachricht.
第10回	Figurencharakterisierung einzelner Personen (Rota, Marinelli)
第11回	Interpretation durch theatralische Umsetzung (Szene 1/8)
第12回	Abschlussdiskussion: Lessing heute?
第13回	Nachbereitung

授業方法

Gruppenarbeit. Denkanregungen durch die Seminarleiterin und die Teilnehmenden

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Eigene Lektüre. Vorbereitung für die ersten 4 Seminare ca. 1 Stunde, ab 5 Seminar weniger.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)	20 %	
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Wichtig ist die Lektüre des Textes und die aktive Teilnahme am Unterricht. Weiterhin gibt es einen kleinen schriftlichen Test zum Textverständnis.

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Die Semianleiterin kann jederzeit vor oder nach dem Unterricht angesprochen werden. Weiterhin gibt es die Möglichkeit zu zusätzlichen Konsultationen nach Vereinbarung über Email.

教科書

EinFach Deutsch Textausgaben: Gotthold Ephraim Lessing: Emilia Galotti: Ein Trauerspiel in fünf Aufzügen.,Martin Heider,Westermann,1998,978-3140222808

参考文献コメント

Referenzmaterial wird zu Verfügung gestellt.

講義コード	M350202202	科目ナンバリング	135F622
講義名	◆ドイツ文学特殊研究(2) (学部:文学・文化コース 専門演習) (大学院)		
英文科目名	Studies in German Literature		
担当者名	GOESSNER, Gesine		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 3時限 北1-403		

授業概要

Im Mittelpunkt des zweiten Semesters steht Lessings Lustspiel "Minna von Barnhelm"(1762). Auch in diesem Werk wird die Beziehung zweier Menschen von politischen und gesellschaftlichen Verhältnissen determiniert. Anders als bei seinem Stück "Emilia Galotti" wählt hier Lessing aber die Form des Lustspiels. Im Seminar soll zunächst durch sorgfältige Lektüre ein genaues Textverständnis erreicht werden. Darauf bauen dann Fragen zur Interpretation auf.

到達目標

Mittels "Minna von Barnhelm" sollen die Studierenden einen zweiten Zugang zu Lessing und seiner Welt der Aufklärung finden. Sie lernen genau zu lesen und erweitern dadurch Ihre Deutschkenntnisse. Bei der Interpretation werden verschiedene Möglichkeiten vorgestellt und angewandt. Weiterhin werden Kenntnisse über die soziale Situation in Deutschland/Europa des 18. Jahrhunderts vermittelt.

授業内容

実施回	内容
第1回	Wiederholung der wichtigsten Erkenntnisse des ersten Semesters
第2回	Textlektüre und Szenenanalyse
第3回	Textlektüre und Szenenanalyse
第4回	Zusammenfassung Szenenanalyse Figurenkonstellation
第5回	Figurencharakterisierung
第6回	Dialoganalyse
第7回	Interpretationsmöglichkeiten und deren Anwendung
第8回	Interpretationsmöglichkeiten und deren Anwendung
第9回	Interpretationsmöglichkeiten und deren Anwendung
第10回	Lustspiel oder Trauerspiel. Das Drama zur Zeit Lessings
第11回	Eigene Versuche?
第12回	Abschlussdiskussion
第13回	Nachbereitung

授業方法

Gruppenarbeit, Diskussionen und Denkanstöße

使用言語

日本語・英語以外

準備学習(予習・復習)

Lektürearbeit in Vorbereitung des Seminars. Der Text des Dramas muss innerhalb von einem Monat gelesen werden. Eine japanische Übersetzung kann als Verständnishilfe Herangezogen werden.

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)	20 %	
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	80 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

Wichtig ist die Lektüre des Textes und die aktive Teilnahme am Seminar. Es gibt einen kleinen Test zum Textverständnis. 博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

Die Seminarleiterin kann jederzeit vor oder nach dem Seminar angesprochen werden. Darüber hinaus besteht die Möglichkeit zu zusätzlichen Konsultationen. Diese können u.a. über Email vereinbart werden.

教科書

Minna von Barnhelm oder das Soldatenglück, G.E. Lessing, Reclam, 2016, 978-3150193129

参考文献コメント

Referenzmaterialien werden als Kopien zur Verfügung gestellt.

講義コード	M350300101	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(1)(大学院)		
副題	意味論と語用論の関係を考える		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

意味論と語用論に関しては、明確に分けるべきであるという立場もあるが、そもそも両者を明確に分けることなどできない、という立場もある。本年は、Eckardt (2021) を読みながら、意味論と語用論の基本的な関係を考える。本書は語用論の入門書であり、基本的な問題を網羅しているが、分量があるので、参加者の興味に従って以下の章の中から取捨選択して読み、議論する。

1. Pragmatik und Semantik
2. Pragmatik und Handlung
3. Pragmatik und Prosodie
4. Pragmatik und Sprachwandel
5. Pragmatik und Gesellschaft

到達目標

- ・意味論と語用論の基礎概念を説明できるようになる。
- ・自分の立場で意味論と語用論の関係を述べるができるようになる。
- ・意味論と語用論に関して、自分の研究テーマを相対化して関係づけられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(問題点の説明、授業の展開の仕方、注意事項の説明)
第2回	参加者による発表とディスカッション
第3回	参加者による発表とディスカッション
第4回	参加者による発表とディスカッション
第5回	参加者による発表とディスカッション
第6回	参加者による発表とディスカッション
第7回	参加者による発表とディスカッション
第8回	参加者による発表とディスカッション
第9回	参加者による発表とディスカッション
第10回	参加者による発表とディスカッション
第11回	参加者による発表とディスカッション
第12回	参加者による発表とディスカッション
第13回	総括

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料は LMS (Moodle) を用いてあらかじめ配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者は各自関係した文献を読み、担当箇所をまとめ、配布物を用意することが求められます(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)		
その他(備考欄を参照)	50 %	

成績評価コメント

1. レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。

2. 平常点は、出席、口頭発表、ディスカッションへの積極的関与の観点から総合的に判断します。
3. 口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
4. 博士前期課程と博士後期課程の学生は、違ったレベルで評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、LMS (Moodle) を使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席してください。

その他

さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的な学生の参加を希望します。

講義コード	M350300102	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(2)(大学院)		
副題	意味論と語用論の関係を考える		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	岡本 順治		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 3時限 個人研究室		

授業概要

1学期に引き続き、意味論と語用論に関しては、明確に分けるべきであるという立場もあるが、そもそも両者を明確に分けることなどできない、という立場もある。本年は、Eckardt (2021) を読みながら、意味論と語用論の基本的な関係を考える。本書は語用論の入門書であり、基本的な問題を網羅しているが、分量があるので、参加者の興味に従って以下の章の中から取捨選択して読み、議論する。

1. Pragmatik und Semantik
2. Pragmatik und Handlung
3. Pragmatik und Prosodie
4. Pragmatik und Sprachwandel
5. Pragmatik und Gesellschaft

到達目標

- ・意味論と語用論の基礎概念を説明できるようになる。
- ・自分の立場で意味論と語用論の関係を述べるようになる。
- ・意味論と語用論に関して、自分の研究テーマを相対化して関係づけられるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション(問題点の説明、授業の展開の仕方、注意事項の説明)
第2回	参加者による発表とディスカッション
第3回	参加者による発表とディスカッション
第4回	参加者による発表とディスカッション
第5回	参加者による発表とディスカッション
第6回	参加者による発表とディスカッション
第7回	参加者による発表とディスカッション
第8回	参加者による発表とディスカッション
第9回	参加者による発表とディスカッション
第10回	参加者による発表とディスカッション
第11回	参加者による発表とディスカッション
第12回	参加者による発表とディスカッション
第13回	総括

授業方法

授業は演習方式で対面で行います。授業で使用する配布資料は LMS (Moodle) を用いてあらかじめ配布します。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

発表者は各自関係した文献を読み、担当箇所をまとめ、配布物を用意することが求められます(約2時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	50 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	50 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

1. レポートは、問題設定、論理性、実証性、形式、独自性を基準として総合判断します。
2. 平常点は、出席、口頭発表、ディスカッションへの積極的関与の観点から総合的に判断します。
3. 口頭発表やレポートでは、研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とします。
4. 博士前期課程と博士後期課程の学生は、違ったレベルで評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

レポートは、LMS (Moodle) を使って返却されます。

教科書コメント

教科書はありません。

参考文献コメント

必要に応じて授業中に紹介します。

履修上の注意

第1回目の授業には必ず出席してください。

その他

さまざまな言語に興味を持ち、知的好奇心にあふれた積極的な学生の参加を希望します。

講義コード	M350300103	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(3)(大学院)		
副題	ドイツ語構文文法(1)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 月曜日 2時限 独文科研究室		

授業概要

構成文法とは、言語構造の分析と記述を行う際に、構文を言語の基本的な構成要素とみなすアプローチで、特に、形式と意味の有機的な結合と言語使用の実態を重要視する。Lakoff, Langacker, Goldbergらによって進められているこのアプローチをドイツ語の構文にどう応用するかを考えていく。教科書として、Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik, de Gruyter, 2013を講読し、毎回議論していく。

到達目標

- ・構文文法について、総合的に俯瞰して、その性質を述べるができる
- ・ドイツ語の文法化の具体的な現象を例示することができる。
- ・言語学の文献をドイツ語で無理なく読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入;構文文法とは何か。
第2回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第3回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第4回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第5回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第6回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第7回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第8回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第9回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第10回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第11回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第12回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第13回	まとめと到達度確認

授業方法

対面授業による演習形式。遠隔授業の場合は、Zoomを使用した同時配信型。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の予習に3時間程度が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、毎回の講読に関する予習と理解度に加えて、積極的にディスカッションに加わったかを評価する。レポートは、構文文法について独自の視点を持って論じられているかを評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS (Moodle)によりフィードバックする。

教科書

Konstruktionsgrammatik,A.Ziem, A. Lasch,De Gruyter,2013,978-3-11-02794-9

教科書コメント

教科書は各自で購入し、第1回の授業に必ず持参すること。

講義コード	M350300104	科目ナンバリング	135F613
講義名	ドイツ語学演習(4)(大学院)		
副題	ドイツ語構文文法(2)		
英文科目名	Seminar in German Language		
担当者名	清野 智昭		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 月曜日 2時限 独文科研究室		

授業概要

構成文法とは、言語構造の分析と記述を行う際に、構文を言語の基本的な構成要素とみなすアプローチで、特に、形式と意味の有機的な結合と言語使用の実態を重要視する。Lakoff, Langacker, Goldbergらによって進められているこのアプローチをドイツ語の構文にどう応用するかを考えていく。第1学期に引き続いて、教科書として、Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik, de Gruyter, 2013を講読し、毎回議論していく。

到達目標

- ・構文文法について、総合的に俯瞰して、その性質を述べるができる
- ・ドイツ語の文法化の具体的な現象を例示することができる。
- ・言語学の文献をドイツ語で無理なく読解できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入;前期の確認
第2回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第3回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第4回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第5回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第6回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第7回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第8回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第9回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第10回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第11回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第12回	Ziem&Lasch, Konstruktionsgrammatik 講読と議論
第13回	まとめと到達度確認

授業方法

対面授業による演習形式。遠隔授業の場合は、Zoomを使用した同時配信型。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

毎回の予習に3時間程度が必要である。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート	30 %	
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	70 %	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

平常点は、毎回の講読に関する予習と理解度に加えて、積極的にディスカッションに加わったかを評価する。レポートは、構文文法について独自の視点を持って論じられているかを評価する。博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価する。研究倫理の遵守を評価の際の1つの規準とする。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

LMS (Moodle)によりフィードバックする。

教科書

Konstruktionsgrammatik,A.Ziem, A. Lasch,De Gruyter,2013,978-3-11-02794-9

教科書コメント

教科書は各自で購入し、第1回の授業に必ず持参すること。

講義コード	M350301201	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(1)(大学院)		
副題	ポストコロニアリズム		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 木曜日 5時限 個人研究室		

授業概要

ポストコロニアリズムのドイツ語の入門書を精読しつつ、主要な理論家たち(ファンン、サイード、スピヴァク等)の主著を日本語で読んで議論を行います。

到達目標

ポストコロニアル理論についての知識を得、理解を深めること。
研究に必要な方法や倫理を学ぶこと。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	フランツ・ファノン1
第3回	フランツ・ファノン2
第4回	フランツ・ファノン3
第5回	エドワード・サイード1
第6回	エドワード・サイード2
第7回	エドワード・サイード3
第8回	ガヤトリ・C・スピヴァク1
第9回	ガヤトリ・C・スピヴァク2
第10回	ガヤトリ・C・スピヴァク3
第11回	第二の歴史家論争
第12回	日本とポストコロニアリズム
第13回	総括

授業方法

演習形式で進めます。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

指定したテキストを事前に読み、翻訳してきてもらいます。また、毎週ミニ課題を出しますので、そのための調査をしてきてもらいます。(3時間)

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

翻訳等に対し、その都度コメントをします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。

講義コード	M350301202	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(2)(大学院)		
副題	アライダ・アスマンを読む		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	伊藤 白		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 木曜日 5時限 個人研究室		

授業概要

想起の文化の理論家アライダ・アスマンのDas Neue Unbehagen an der Erinnerungskultur (2013)は、『想起の文化 忘却から対話へ』というタイトルで邦訳され、日本国内でも広く読まれています。2020年に出版された第3版には、新たに第8～10章が設けられ、ユダヤ人ジャーナリスト・チョレックや極右政党AfDの歴史家たちとの対話が試みられています。この授業では、第7章までを日本語訳で読みつつ、第8～10章をドイツ語で精読し、内容について議論を行います。

到達目標

アライダ・アスマンの「想起の文化」の理論を理解し、それに対する自分の考えを持つことができるようになること。
論文等を書く上での研究方法・倫理を習得すること。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	『想起の文化』序章
第3回	『想起の文化』第1章
第4回	『想起の文化』第2章
第5回	『想起の文化』第2章
第6回	『想起の文化』第3章
第7回	『想起の文化』第3章
第8回	『想起の文化』第4章
第9回	『想起の文化』第5章
第10回	『想起の文化』第6章
第11回	『想起の文化』第6章
第12回	『想起の文化』第7章
第13回	『想起の文化』結び

授業方法

ディスカッションを中心に行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

ドイツ語の担当箇所を翻訳してきていただきます。また、日本語訳の担当箇所を要約し、それについて自分の考えをまとめてきていただきます(3時間)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なる基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

授業の中でコメントします。

教科書コメント

授業中に指示します。

参考文献コメント

授業内で指示します。

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席してください。

講義コード	M350301203	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(3)(大学院)		
副題	イルゼ・アイヒンガーのラジオ・エッセー		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 金曜日 1時限 西1-211		

授業概要

戦後ドイツ文学の代表的な担い手であるイルゼ・アイヒンガー(1921～2016)。この授業では、1950年代にアイヒンガーが書いたラジオ・エッセーに注目し、ラジオが戦後ドイツ文学に果たした役割や、戦後、新たに模索されたドイツ語とはどのようなものだったのかといった視点から、エッセーを読み解きます。1学期はゲオルク・トラークルをめぐるエッセーを読みます。

到達目標

- ・アイヒンガーのラジオ・エッセーを原語で読む。
- ・戦後ドイツ文学におけるラジオの意義を理解する。
- ・作品について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第3回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第4回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第5回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第6回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第7回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第8回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第9回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第10回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第11回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第12回	Radio-Essay über Georg Trakl (1957)
第13回	総括

授業方法

授業は対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んできてください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

授業時に資料を配布します。

講義コード	M350301204	科目ナンバリング	135F624
講義名	ドイツ文学演習(4)(大学院)		
副題	イルゼ・アイヒンガーのラジオ・エッセー		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	小林 和貴子		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 金曜日 1時限 西1-211		

授業概要

戦後ドイツ文学の代表的な担い手であるイルゼ・アイヒンガー(1921～2016)。この授業では、1950年代にアイヒンガーが書いたラジオ・エッセーに注目し、ラジオが戦後ドイツ文学に果たした役割や、戦後、新たに模索されたドイツ語とはどのようなものだったのかといった視点から、エッセーを読み解きます。2学期はシュール兄妹をめぐるエッセーを読みます。

到達目標

- ・アイヒンガーのラジオ・エッセーを原語で読む。
- ・戦後ドイツ文学におけるラジオの意義を理解する。
- ・作品について、その文学的特徴を分析できるようになる。

授業内容

実施回	内容
第1回	導入
第2回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第3回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第4回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第5回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第6回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第7回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第8回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第9回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第10回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第11回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第12回	Radio-Essay über die Geschwister Scholl (1958)
第13回	総括

授業方法

授業は対面で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

事前にテキストを読んできてください(2時間程度)。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は異なった基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回の予習が「課題」です。授業中に確認し、コメントします。

教科書コメント

授業時に資料を配布します。

講義コード	M350301205	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(5)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	記憶および想起に関する短編小説を読む		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 1時限 西1-213		

授業概要

記憶および想起がどのように文学であらわされているのかを、作品を読みながら考えていきます。

到達目標

文学表現における記憶および想起の描き方の知識を深めるとともに、ジェンダーの視点から文学作品を捉える手法を身につけ、その方法を具体的に作品分析に応用することができるようになることを目標とします。
なお大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献講読(1)
第3回	文献講読(2)
第4回	文献講読(3)
第5回	文献講読(4)
第6回	文献講読(5)
第7回	文献講読(6)
第8回	文献講読(7)
第9回	文献講読(8)
第10回	文献講読(9)
第11回	文献講読(10)
第12回	文献講読(11)
第13回	文献講読(12)／まとめ

授業計画コメント

精読を行います。必ず準備して授業に臨んでください。

授業方法

対面による演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(課題も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度及び課題提出、特に積極性を重視します。
学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示します。

履修上の注意

欠席する場合には、事前に連絡をしてください。また翌週に課題を提出してください。

講義コード	M350301206	科目ナンバリング	135F624
講義名	◆ドイツ文学演習(6)(学部:文学・文化コース 専門演習)(大学院)		
副題	映画と文学		
英文科目名	Seminar in German Literature		
担当者名	田丸 理砂		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 1時限 西1-213		

授業概要

20世紀前半、映画は人々に人気の娯楽文化でした。この授業では映画に関する評論やエッセイ、および映画が文学表現に与えた可能性について考えていきます。

到達目標

新しいメディアが文学に与えた可能性を学ぶことで、その方法を映画以外のメディアと文学との関係性の考察に応用できるようになることを目標とします。

なお大学院生はより高度な学修と成果が求められます。

授業内容

実施回	内容
第1回	イントロダクション
第2回	文献講読(1)
第3回	文献講読(2)
第4回	文献講読(3)
第5回	文献講読(4)
第6回	文献講読(5)
第7回	文献講読(5)
第8回	文献講読(7)
第9回	文献講読(8)
第10回	文献講読(9)
第11回	文献講読(10)
第12回	文献講読(11)
第13回	文献講読(12)／まとめ

授業計画コメント

毎回授業で扱うテキストの範囲について、簡単な課題を出し、授業では精読を行います。

授業方法

対面による演習方式で行います。

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

あらかじめ指定した範囲のテキストの予習(要約も含む)。およそ2時間の予習を求めます。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

授業への出席態度および課題提出、特に積極性を重視します。学部学生と大学院学生とは異なる基準により評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

毎回指定するテキストの範囲については、授業内でコメントを行います。

教科書コメント

テキストは授業中に指示をします。

参考文献コメント

授業中に指示をします。

履修上の注意

欠席する場合は、事前に連絡をしてください。また欠席した場合には、翌週に課題を提出してください。

講義コード	M350303201	科目ナンバリング	135F614
講義名	ドイツ語史演習(1)(大学院)		
副題	ドイツ語の歴史:1500～1900年		
英文科目名	Seminar in History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第1学期 火曜日 3時限 独文院生室		

授業概要

14世紀に都市の興隆にともない、都市生活を管理する官庁のドイツ語の重要性が高まり、他方で、大学の創設(プラハ、ウィーン、ハイデルベルク、ケルン)により、ラテン語を模範にしてドイツ語を整備していく道筋がつけられました。かくして徐々に形づくられたドイツ語文章語は、16世紀にルターの聖書翻訳により明確な輪郭が描かれ、書籍印刷術のおかげでドイツ語圏に広く伝播し、17世紀、18世紀には文法家たちがそれに規則を与えました。そのようにして規範化された文章語が19世紀に学校教育で教えられ、広く社会に浸透していきました。

本授業では、今述べたようなドイツ語の歴史の流れについていくつかのトピック(Question)にわけて考察を進めていきます。

到達目標

言語変化、とくに言語の標準化のプロセスについて洞察を深めること。

授業内容

実施回	内容
第1回	授業についての導入 【学習】ドイツ語史の基礎概念:古高ドイツ語(750～1050年)から中高ドイツ語(1050～1350年)へ
第2回	【学習】ドイツ語史の基礎概念:初期新高ドイツ語(1350～1650年)から新高ドイツ語(1650年～)へ
第3回	【トピック】ヤーコプ・グリムのドイツ語史理解 ★ グリムはドイツ語をなぜ「瓦礫」というメタファーで捉えたのか?
第4回	【トピック】統語規則の形成と変遷(1) ★ 現代ドイツ語ではなぜ、dass er das Lied singen können hatではなく、dass er das Lied hat singen können という語順が正しいのか?
第5回	【トピック】統語規則の形成と変遷(2) ★ 現代ドイツ語ではなぜ、形容詞の強変化の男性・中性2格の語尾は、kaltes Biersではなくkalten Biersという変化が正しいのか?
第6回	【トピック】ルターのドイツ語(1) ★ ルターはどのようなドイツ語で「神のことば」(聖書)を書き表したのか?
第7回	【トピック】ルターのドイツ語(2) ★ ルターのドイツ語にはどのような経年変化が認められるのか?
第8回	【トピック】ドイツ語文法の拡充(1) ★ 冠飾句、未来受動分詞(eine immer noch schwer zu lösende Frage)という形式はどのようにして誕生したのか?
第9回	【トピック】ドイツ語文法の拡充(2) ★ ドイツ語はラテン語文法からどのように脱却していったのか?
第10回	【トピック】枠構造の形成と変遷(1) ★ 枠構造はドイツ語話者にとってどれほど自然なものであったのか?
第11回	【トピック】枠構造の形成と変遷(2) ★ 17・18世紀の文法家たちは 枠構造をどのように評価したのか?
第12回	【トピック】Duden文法前史(1) ★ 19世紀の学校教育でドイツ語の文章論(統語論)は何を目的に教えられたのか?
第13回	【トピック】Duden文法前史(2) ★ 19世紀の学校教育ではどのような文章論(統語論)が教えられたのか?

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

歴史的なテキストを扱うので、十分な予習時間が必要です。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		

学期末試験(第1学期)

学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ハンドアウト作成法や文献検索法については授業内および面談時にコメントします。

参考文献

ドイツ語の歴史論:講座ドイツ言語学第2巻,高田博行・新田春夫,ひつじ書房,2013

言語の標準化を考える一日中英独仏「対照言語史」の試み,高田博行・田中牧郎・堀田隆一,大修館書店,2022

歴史言語学とドイツ語史,荻野蔵平・齋藤治之,同学社,2015

ドイツ語史ー社会・文化・メディアを背景として,須沢通・井出万秀,郁文堂,2009

ドイツ語の歴史,ヴィルヘルム・シュミット(西本美彦他訳),朝日出版社,2004

講義コード	M350303202	科目ナンバリング	135F614
講義名	ドイツ語史演習(2)(大学院)		
副題	ドイツ語の歴史語用論		
英文科目名	Seminar in History of the German Language		
担当者名	高田 博行		
単位	2	配当年次	M 1年～2年 / D 1年～3年
時間割	第2学期 火曜日 3時限 独文院生室		

授業概要

「歴史語用論」(Historische Pragmatik)とは、過去のコミュニケーションのあり方を復元しようとする言語学の分野です。日常生活において人々がことばをどのように用いて行動を行っていたのか、またそれが時とともにどのように変化したのかを研究します。本授業では、過去の日常生活のさまざまな場面においてドイツ語がどのように話されて話し手の意図が聞き手に伝えられたのか、またその様態が現代ドイツ語の場合とどう異なるのかについて考察します。

到達目標

言語史の展開を機械的な変化として捉えるのではなく、それぞれの発話場面においてコミュニケーションする人間の顔とところが見えるような観点で捉える視点を養うこと。

授業内容

実施回 内容

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 導入。
【基礎概念】ヨーロッパ的アプローチ:「語用論的フィロロジー」 |
| 第2回 | 【基礎概念】歴史段階の話しことばの再構成(復元):「話しことば性」と「書きことば性」 |
| 第3回 | 【基礎概念】文法化、主観化、間主観化:命題表現から感情表出表現へ |
| 第4回 | 【基礎概念】談話標識(ディスコース・マーカー):発話を巧みに制御し展開させる表現手段 |
| 第5回 | 【基礎概念】呼称(アドレス・ターム):相手をどう呼ぶかという問題 |
| 第6回 | 【基礎概念】ポライトネス:発話者間の力関係・親疎関係による制御 |
| 第7回 | 【ケーススタディ】wegenの文法化とポライトネス |
| 第8回 | 【ケーススタディ】談話標識 Weisst du was 「あのね」の歴史的発展:テキスト的機能から表出的機能へ |
| 第9回 | 【ケーススタディ】ドイツ最古の週刊新聞の「書きことば性」の度合い(17世紀) |
| 第10回 | 【ケーススタディ】魔女裁判記録のことば:裁判所書記官は被告の言動をどう書きしるしたのか(17世紀) |
| 第11回 | 【ケーススタディ】敬称(の呼称)に踊らされる市民たち(18世紀) |
| 第12回 | 【ケーススタディ】ドイツ語辞書(アーデルング)に書き留められた話しことば[日常語](18世紀) |
| 第13回 | 【ケーススタディ】ハイジはどの呼称で召使いのセバステイアンに呼びかけたのか(19世紀) |

授業方法

演習

使用言語

日本語

準備学習(予習・復習)

歴史的段階のテキストに関わるので、十分に時間をかけて予習する必要があります。

成績評価の方法・基準

評価項目	評価配分(%)	備考
学期末試験(第1学期)		
学年末試験(第2学期)		
中間テスト		
レポート		
小テスト		
平常点(出席、クラス参加、グループ作業の成果等)	100%	
その他(備考欄を参照)		

成績評価コメント

博士前期課程の学生と博士後期課程の学生は、それぞれ別の基準で評価します。

課題(試験やレポート等)に対するフィードバック

ハンドアウト作成法や文献検索法については授業内および面談時にコメントします。

参考文献

歴史語用論入門－過去のコミュニケーションを復元する：言語学フロンティア 03,高田博行・椎名美智・小野寺典子,大修館書店,2011

歴史語用論の世界－文法化・待遇表現・発話行為,金水敏・高田博行・椎名美智,ひつじ書房,2014

歴史語用論の方法,高田博行・小野寺典子・青木博史,ひつじ書房,2018

場面と主体性・主観性,澤田治美・仁田義雄・山梨正明,ひつじ書房,2019

履修上の注意

第1回目の授業に必ず出席のこと。